

マスタープランに基づき、各キャンパスで着々と整備が進められている 東北大学新キャンパス構想

■ 片平キャンパス

エクステンション教育研究棟が完成

本部別館跡地に、専門職大学院などに対応した施設として、エクステンション教育研究棟が平成22年8月に完成した。

正門からのアイストップとなることを意識し、スクラッチタイルを用いるとともに、塔の部分に東北大学のロゴマークを掲げたデザインとすることで、片平キャンパスの新しいランドマークになっている。



プロジェクト総合研究棟が完成

正門を入ってすぐ、史料館に隣接して、プロジェクト総合研究棟が平成21年12月に完成した。

片平キャンパスの歴史的建造物のデザインを継承し、正門へと繋がる街路沿いの前面に、スクラッチタイルを用いた縦のラインを強調したデザインを採用。また、壁面線を周辺と揃え、上階をセットバックさせることでキャンパスのランドマークである史料館の見え方に配慮している。



インテグレーション教育研究棟の建設に着手

北門に隣接し、大正14年から長年片平キャンパスの顔として親しまれてきた旧東北帝国大学工学部金属工学教室を、スクラッチタイルの外壁を保存・再生しつつ、増築部分に新しい機能を付加しながらガラス壁等の現代的な仕上げとし、歴史を継承したデザインとして蘇らせる工事に着手した。



■ 川内キャンパス

厚生会館の改修および増築

昭和44年に建てられ築後40年を経過した厚生会館の全面改修、および平成20年度に整備した川内キャンパスプラザに面して、緩やかな円弧を描く木造平屋建ての新食堂の増築が完了。

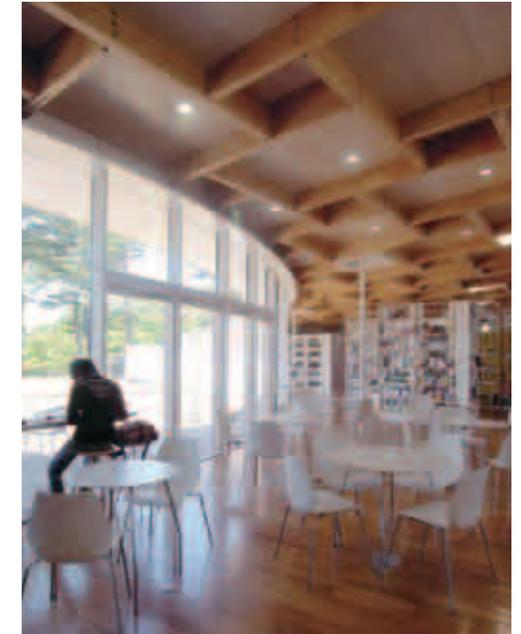
色とりどりのキッチンボックスから、多彩なメニューを提供する新食堂は、川内キャンパスの新たな顔として、食事をするだけでなく、集い、語り、憩うことの出来る賑わいの場を提供している。



■ 青葉山キャンパス

book cafe "BOOOK" がオープン

現在進められている青葉山東キャンパスの福利厚生施設の整備の一環として、東北大学初のブックカフェと購買店舗、トラベルカウンターが入る、「BOOOK(ブーク)」が先行オープン。2万5千冊の専門書の中で本格的なエスプレッソマシンによるコーヒーを飲むことができる。



■ 青葉山新キャンパス

造成工事の進む新キャンパス

「杜の都」仙台のシンボルとして市民に親しまれている青葉山の豊かな自然環境を活かした「環境調和型キャンパス」の実現に向け、青葉山新キャンパスの整備を進めており、現在造成工事が着々と進行中である。

平成22年4月には、先行して未来科学技術共同研究センター(NICHe)未来産業技術共同研究館がオープン。建物内は様々な研究に対応できるフレキシブルな実験室と明るいリフレッシュスペースで構成されている。

また、新キャンパスには、平成27年度開業を目指して工事が進む仙台市の地下鉄東西線の青葉山駅(仮称)が設置される予定。東西線は、南西部の八木山動物公園付近から青葉山、川内を経由し、仙台駅付近を経て仙台東部道路の東インターチェンジ、仙台港付近に至る路線であり、仙台都心からのアクセスが容易になるなど、交通の利便性の向上が期待される。



東北大学キャンパスマスタープランパンフレットを作成

Topics

平成19年から順次、各キャンパス整備委員会等で検討・策定してきたキャンパスのマスタープランの概要をまとめたパンフレット「東北大学キャンパスマスタープラン」(平成22年3月)を作成。トライアングル・ビジョン—東北大学新キャンパス構想—を踏まえ、平成27年度の仙台市地下鉄東西線の開業を見据えたキャンパスの再編を目指し、オープンスペース計画・施設計画・交通計画を主にまとめている。

東北大学新キャンパス構想WEBページからもダウンロード可能。
http://campus.bureau.tohoku.ac.jp/tu_top.html

